

1
1
83

新撰
造化機論
全



特65
413



新撰
造化機論
全

辨造化機論目錄



一陰莖同圖

一精囊同圖

一子宮同圖

一陰門同圖

一陰經論

一外陰處同圖

一陰山

一大陰唇一名陰唇

一小陰唇一名尿管

一挺孔

一尿道

一陰門繫帶

一會陰

一子宮

一喇叭管

一卵巢

一乳線

一陰庭

一處女膜

一子宮

一喇叭管

一卵巢

一乳線

一子宮

一喇叭管

一卵巢

一乳線

一月經

一懷妊の理

一不妊の理

一懷妊自由の理

一避妊自由の理

一男子女子と自由不得

一難産

一臀部先出の時頭部を

引出す圖

鑷子を腔に入る、圖

鑷子を以て兒頭を挟む圖

兒頭を碎破く圖

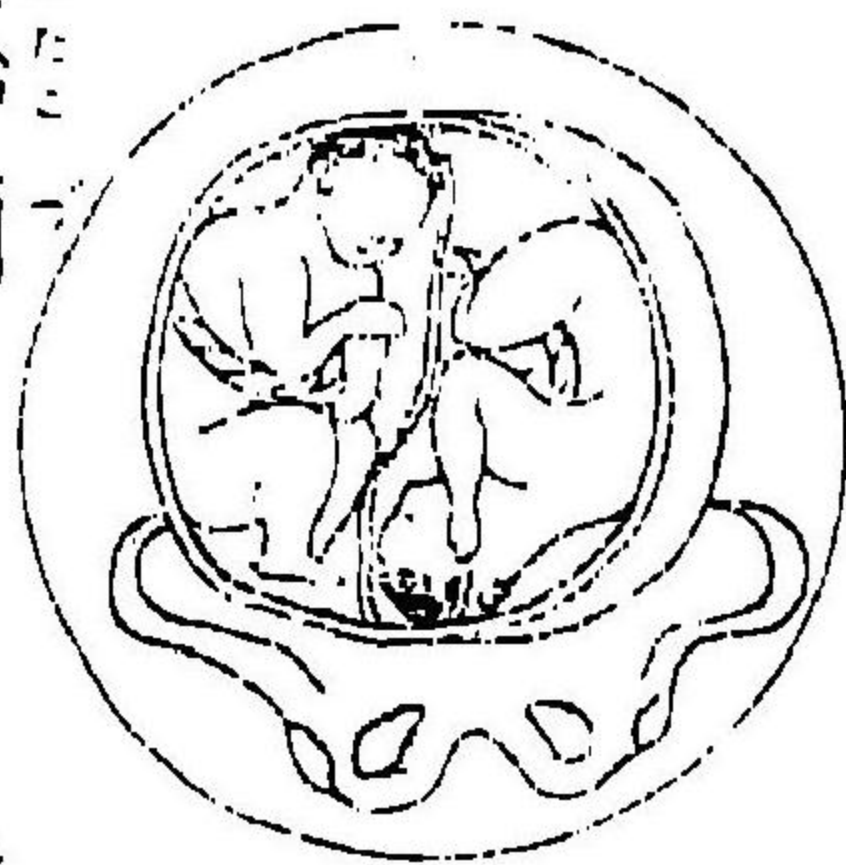
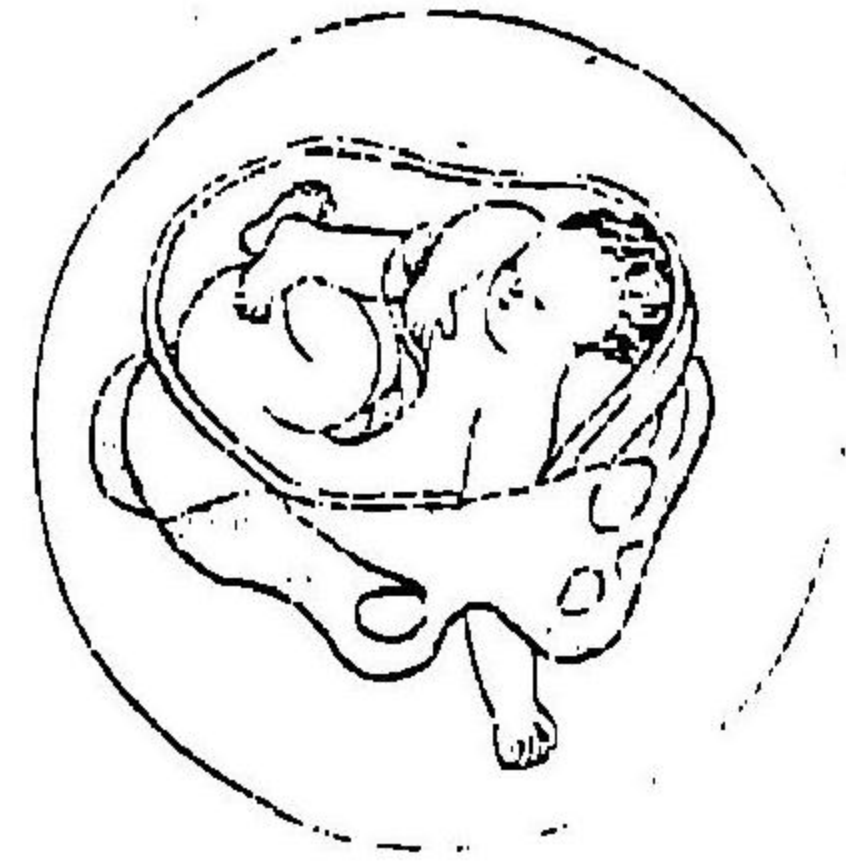
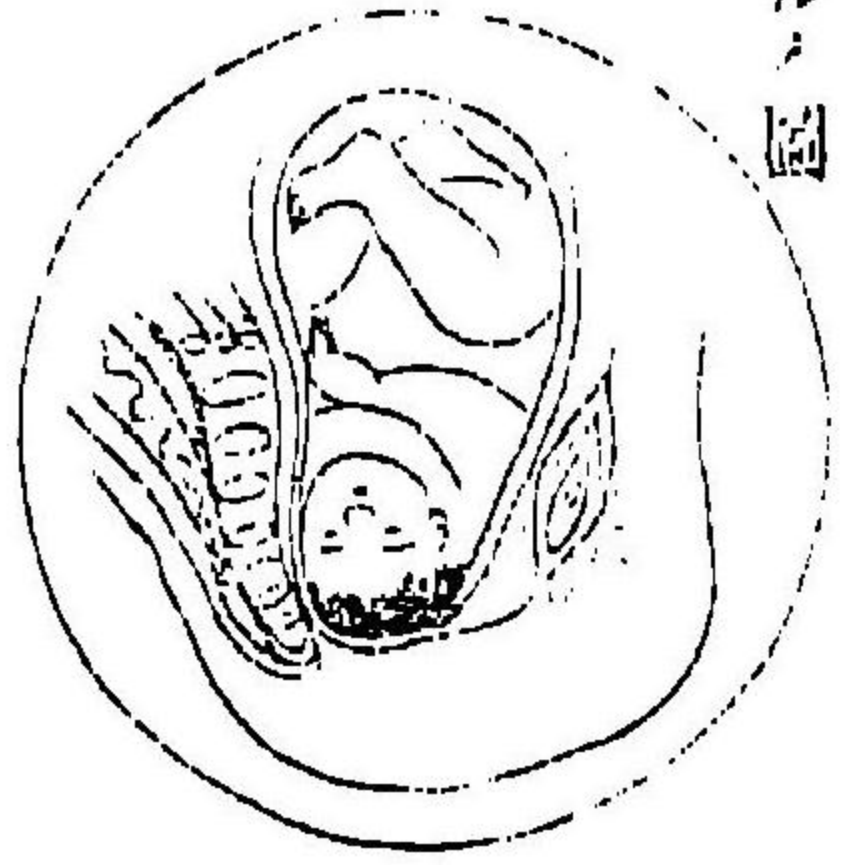
同割出之圖

ウエクチス器械を用る圖

胎兒トケリニシテ生レント
スルノ圖

横産ノ圖

逆産脚先ニ出ル圖



双胎ノ圖

臂産ノ圖

臂産ノ兒を挽出圖

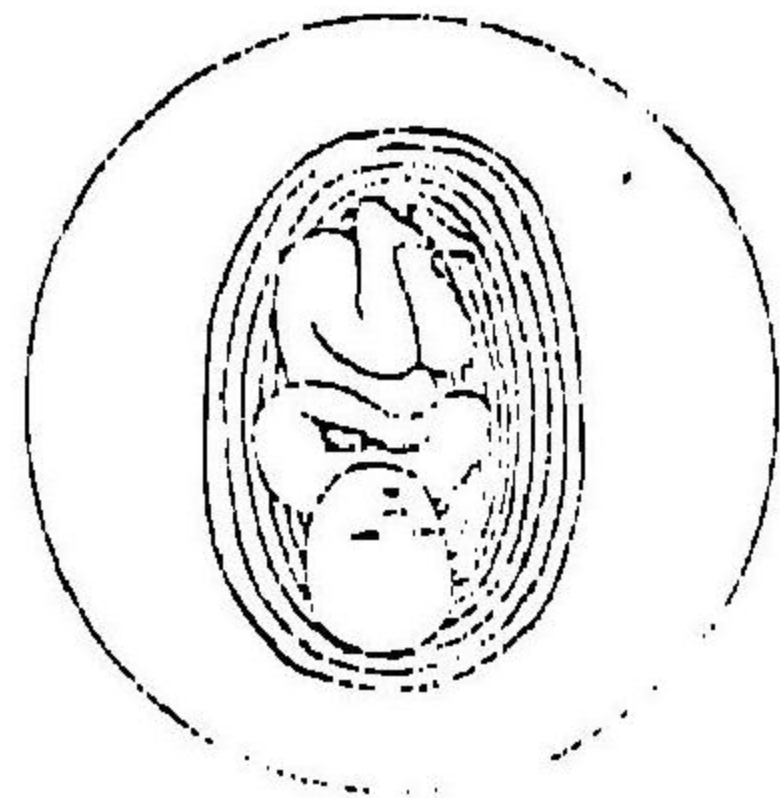
月一



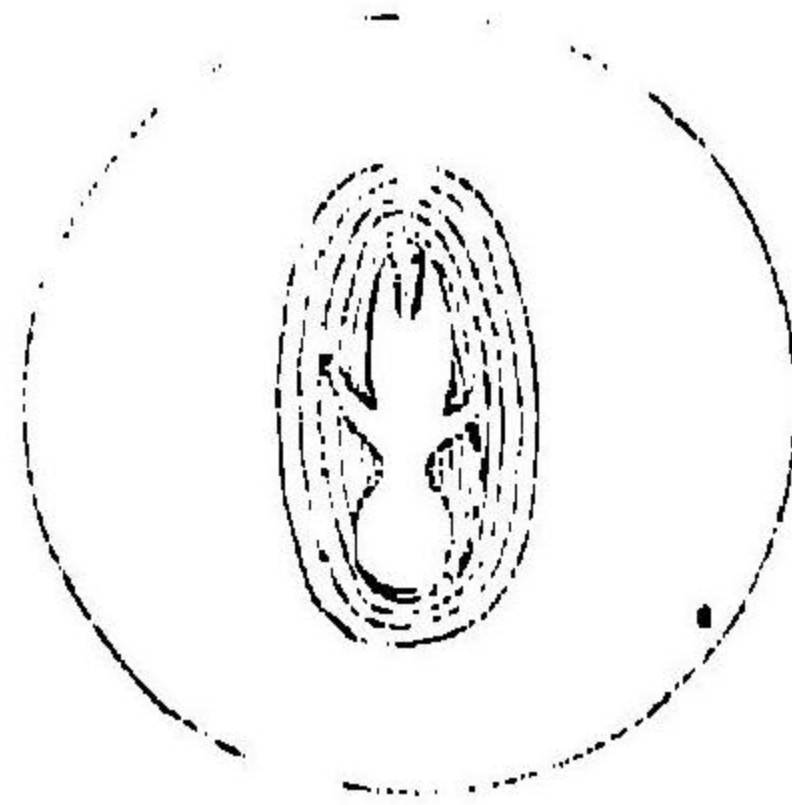
三
月



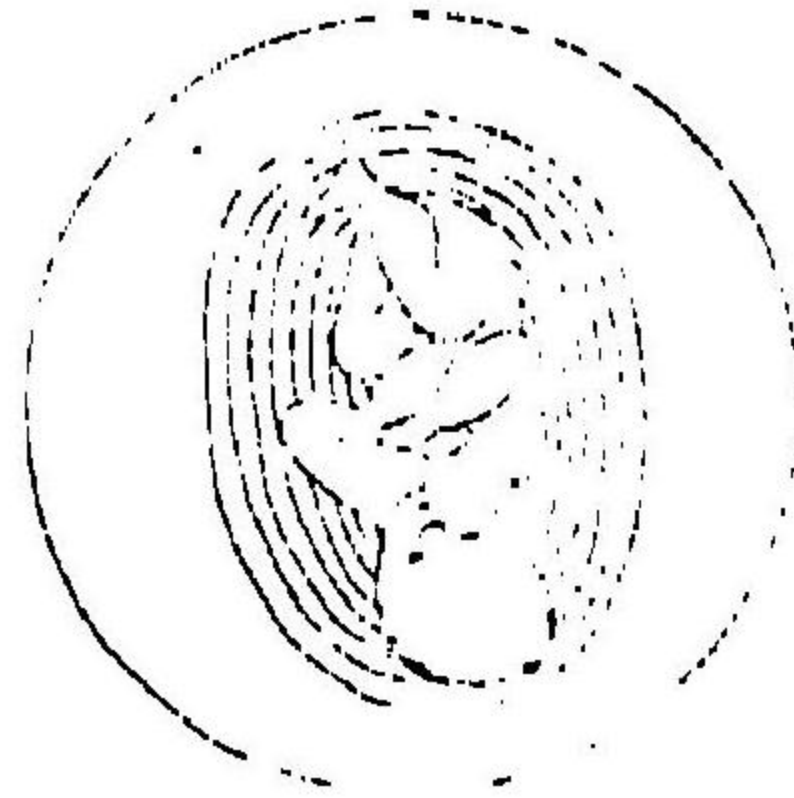
四
月



月二



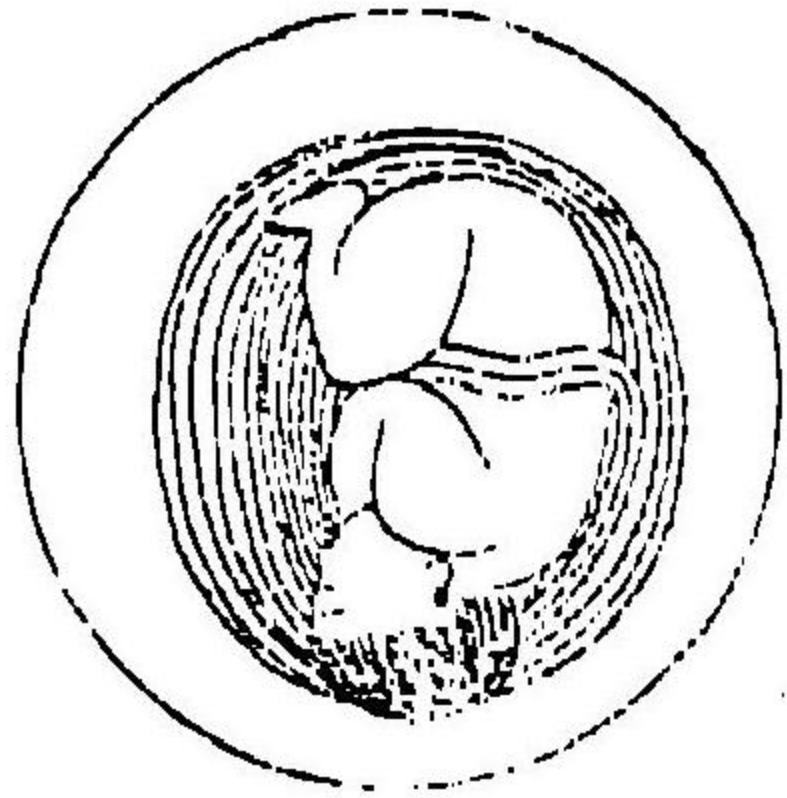
五
月



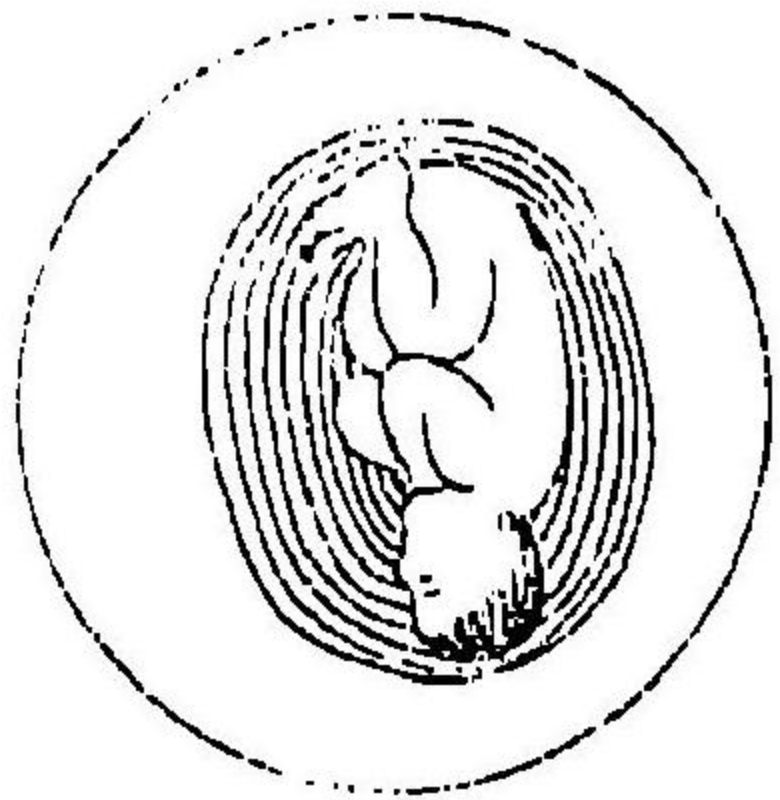
月六



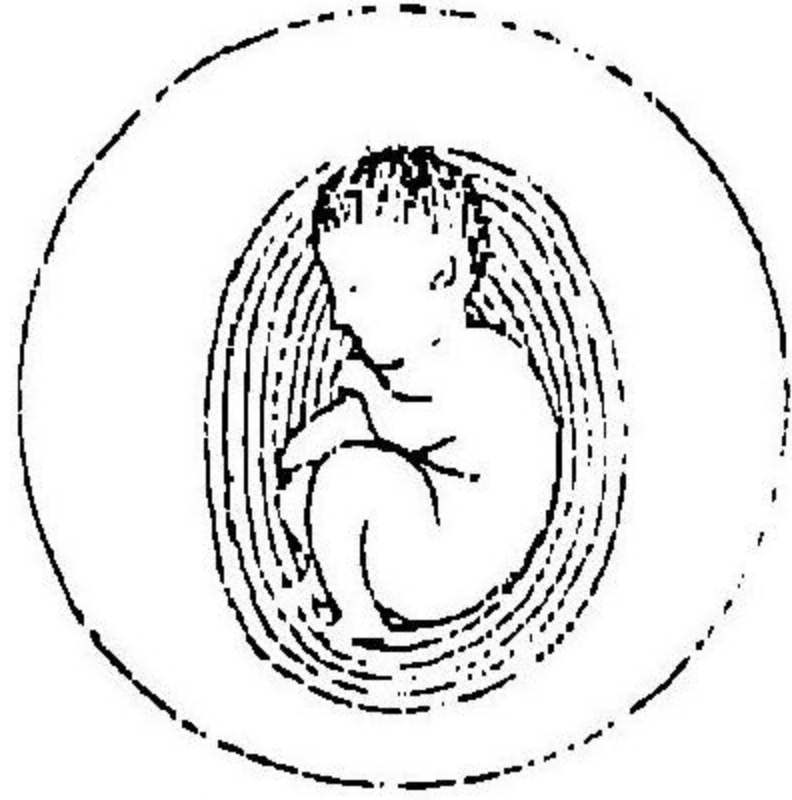
九
月



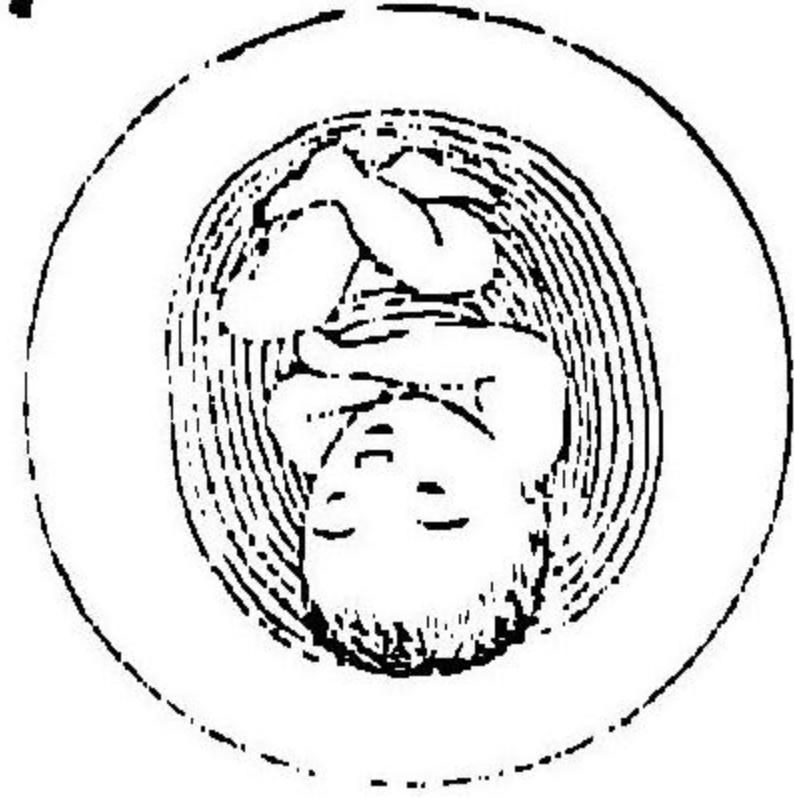
分



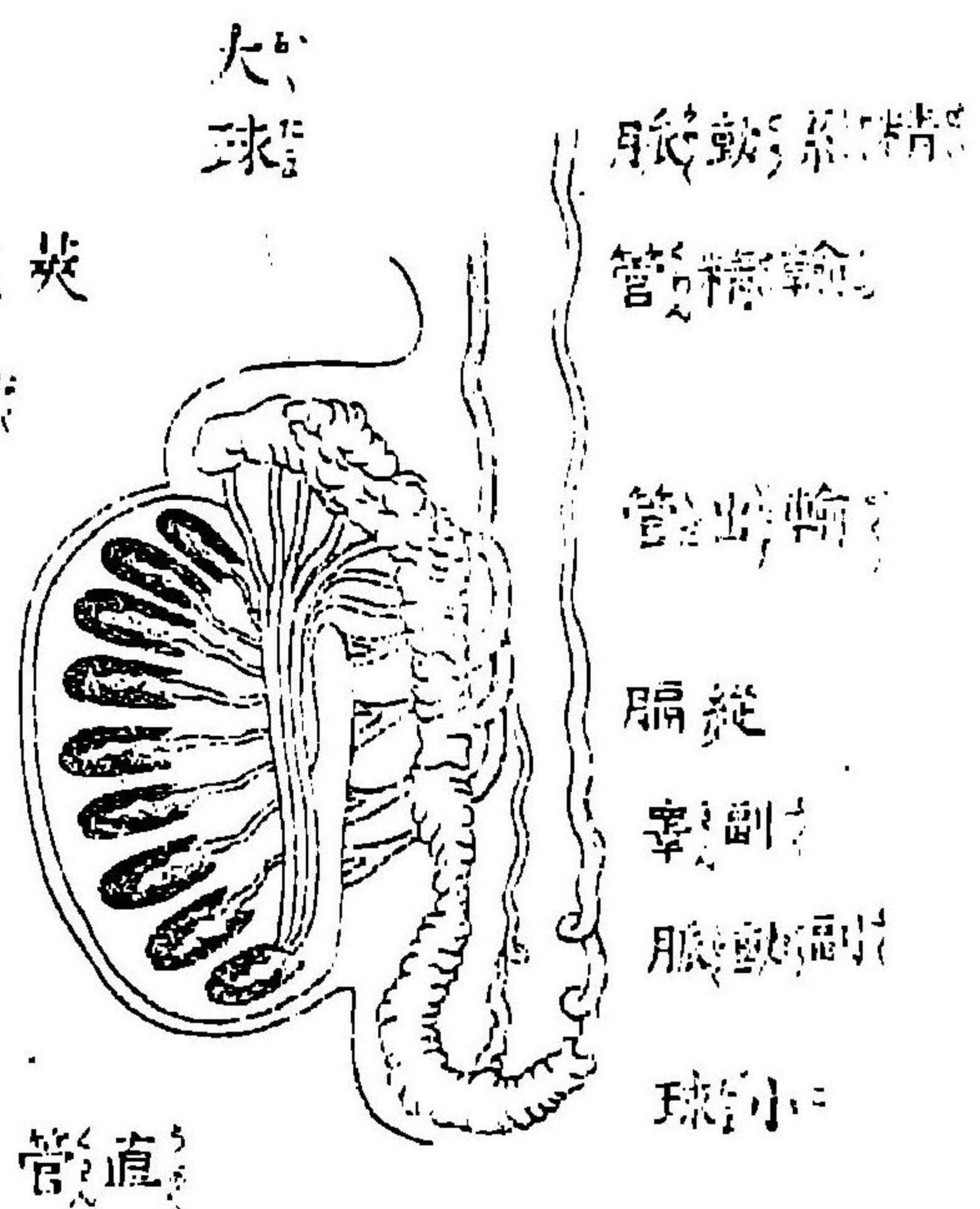
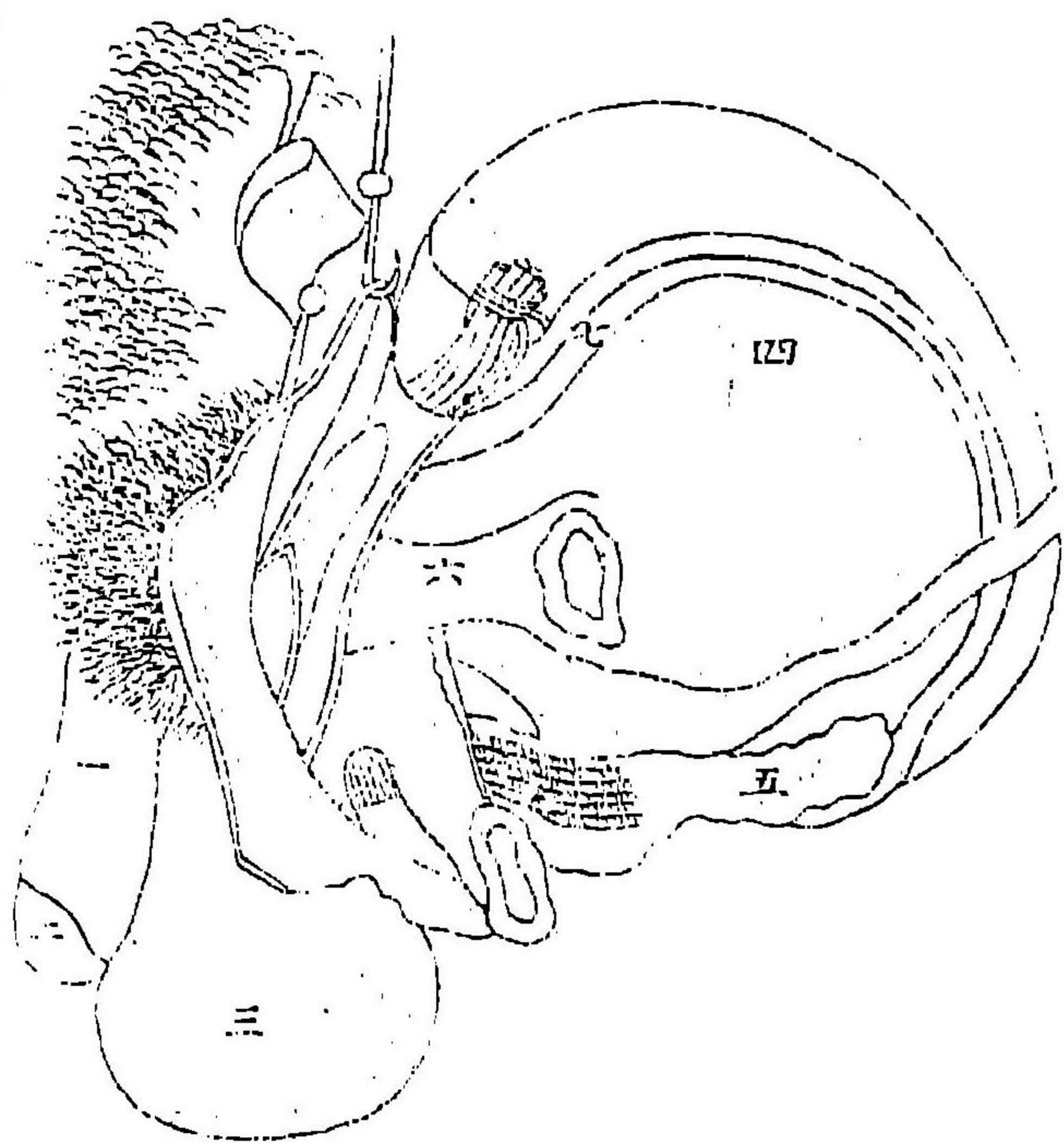
月七

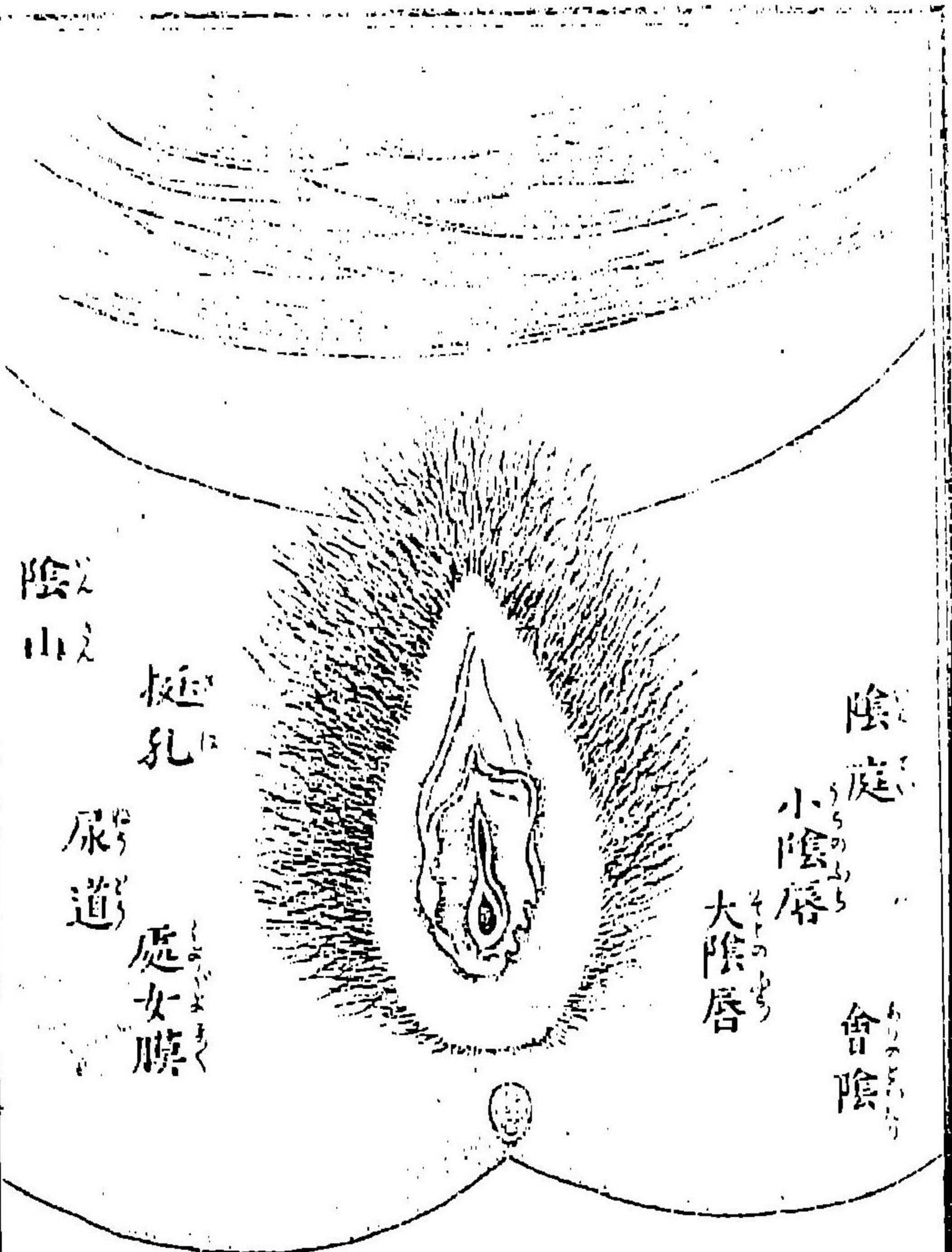


十
月

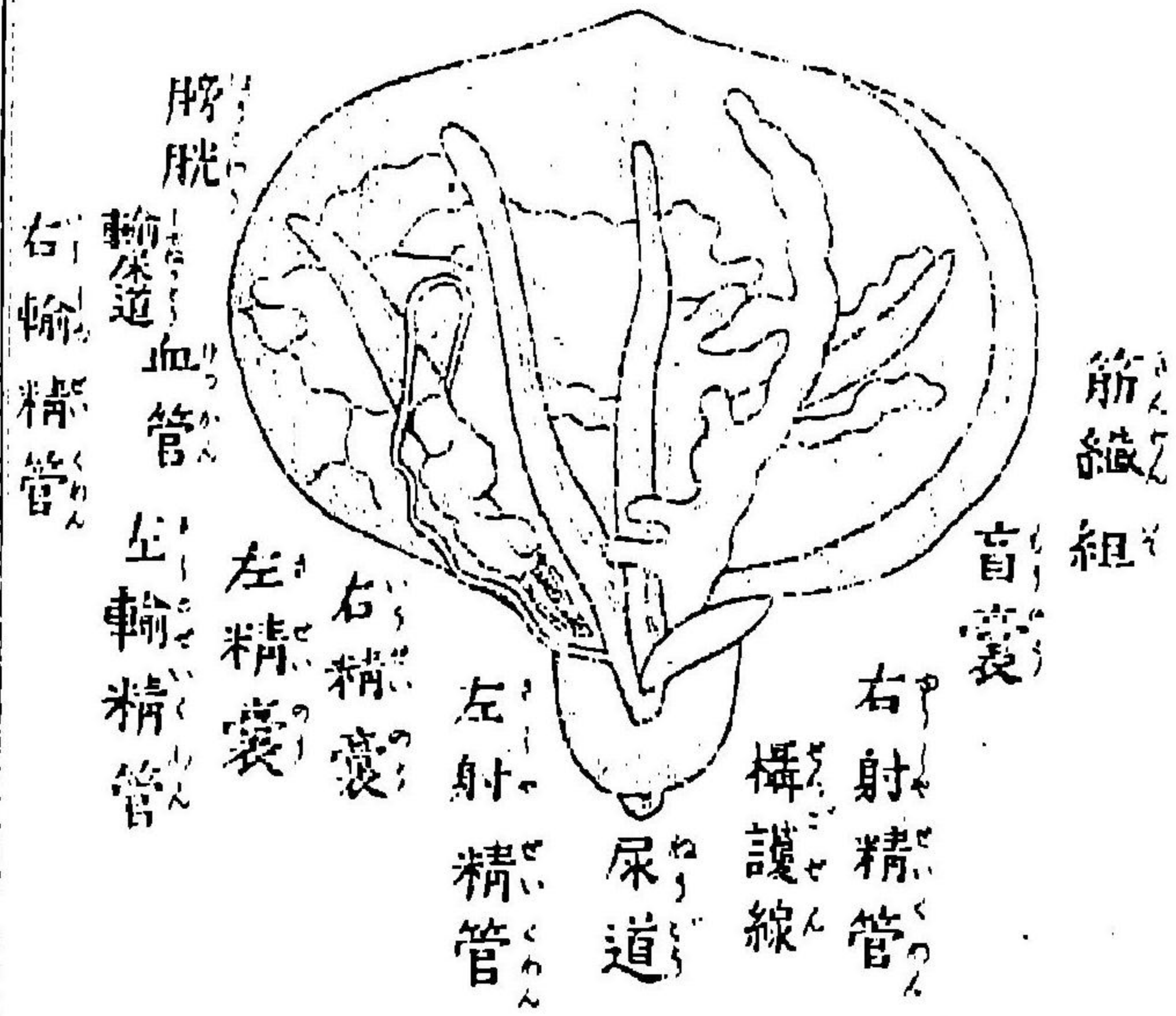


一 陰莖
 二 龜頭
 三 陰囊
 四 膀胱
 五 精囊
 六 攝護線
 七 輸尿管

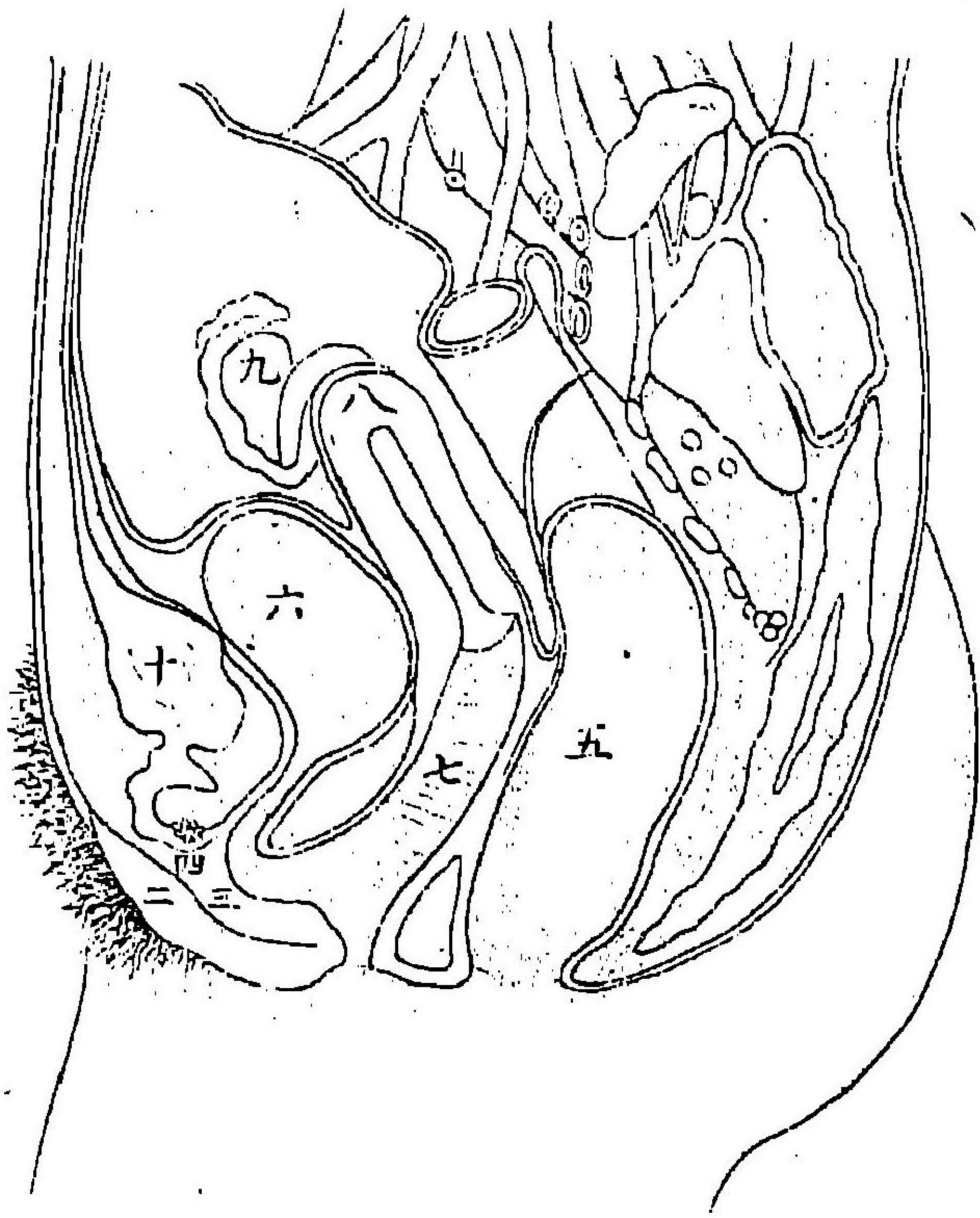




第五圖



一 提孔
 二 大陰唇
 三 小陰唇
 四 尿道口
 五 膀胱
 六 直腸
 七 陰道
 八 子宮
 九 卵巣
 十 耻骨



新造化機論

陰莖

陰莖ハ根幹龜頭の三部分组成り其龜頭の形状小於るや
 てらど圓錐の形状にして其上端にハ尿を輸り出す為の穴
 あり又其幹ハ三の圓き壻より成り立ち之を區別すれば則
 ち二つの空洞体と一つの海綿体より成り立ち又此兩空
 洞体ハ各強き纖維にて掩ふれ又其内にハ細脈勃張組織を
 包み又其兩空洞体の間ハ中隔ありて之を隔つ而して海
 綿体ハ空洞体の接く所の下即ち陰莖の根より起り龜頭の
 中に入りて以て尿道を包むも此なり

畢丸

畢丸ハ卵形ノ線ヲ以テ二ツノ精系小由リテ陰囊の中ノ掛
 るものナリ又其背而小副畢とシテ長クシテ狭キ形状のも
 のナリテ上端ハ下端より大シク其上端と大球とツイテ下端
 と小球と言ふ又其大球ハ衆クノ管を以テ畢丸ノ上部と連
 リ小球ハ其下部と白キ膜と小連レリ又總テ左ノ掛ル所ノ
 畢丸ハ稍々右ノ畢丸より其形状大キト常トス
 畢丸ハ大ナル又小ナル球ガ二百五十個より四百個位集リ
 テ成るものナリ其球ハ圓錐ノやうな形状となり三個又ハ
 四個ノ細精管ガ纏レ纏ヒテされとナリ又此細精

管と解キ延セハ直径ハ零厘四毛より五毛程又其長さハ尤
 も長キ細管ナリ其數ハ三百乃至八百もありテ更小一叢
 ノ細毛ノ管小テ其周圍を圍繞シ其小球ハ後部に至リテ直
 徑一厘六毛程あり二十又ハ三十ノ直管となリ
 直管ノ末ハ上ノ方小上リ行キながリ諸管と連接リ以テ畢
 丸ノ網となリ又此畢丸網ノ上端ハ十二乃至十五ノ輸出管
 小連リ白膜と貫キテ副金に通ジ諸管ノ形チ此に至リテ太
 くなり纏レ纏フテ圓錐管となシ副畢ノ上ノ端即チ大球と
 ナリ下リテ副畢ノ小球に至レバ諸管ハ一管ニ連接リテ益
 々纏纏ふ又此管と解キ延セバ二十尺よりも長キものナリ

とつ輸精管ハ此管の本として副睪の背面に於て小球より上の方小上り行き精系と經て下腹に入り遂に膀胱の底に至りて太くなり又細くなり精囊より連り射精管となりたるものなり

睪丸の落着

兒子胎中にあるの初め小ハ其睪丸ハ腹の内の腎藏の下にありと雖も第七月目より下り初め第八月の終りに陰囊の裡に落着くを常とす又胚胎の初めハ女兒の卵巢と男兒の睪丸と其位置と同ふす又女兒の子宮の圓韌帯にハ睪丸の落着と相似たる變動あるものなり

精囊

精囊ハ小球膜囊より膀胱直腸の間よりありて左右の兩囊に分れたり是れ精液と貯ふる所の器にして囊中別々自己の分泌よりて精液と混合る又其長さハ二寸廣さハ四分ありと常とす然し其から大小ハ人より因りて同くハ精囊ハ直徑鷲毛管程よりて長さ四寸八分程ある一本の管が纏ふて之より小枝を生じたるものあり又射精管ハ長さ六分程あり管よりして攝護腺の底より起り上の方前面に進み尿道の蓋状竇より入る精囊ハ細小なる織糸よりて睪丸中に分泌せる精液中に見るべし其首端ハ卵圓形となり末ハ細く

して尾の如し其形ち恰も蝌斗の如く頭と尾を備るに似て
且つ運動せらるるを以て小虫なりと云ふ誤謬と惹き出すに至
れり又此精液と顕微鏡にて見れば直径零厘二毛程の小精
球と含めりといふ

陰經の論

婦人の生殖器ハ内外の二つに分つ外器ハ陰山大陰唇小陰
唇挺孔處女膜あり又内器ハ膈子宮卵巢喇以管なり又乳房
も生殖器の中一算へ入るることあり

外器一名陰處

陰山

陰山ハ耻骨の合縫の上に掩ひたる坐褥様の高まりにして
下腹の下ニ元然と高き處則ち是れなり其形ハ三角形にし
て婦人の身熟すれば其上に陰毛と生ず其物たる蜂巢脂肪
の二組織より成れり

大陰唇 一名陰辰

外陰唇ハ陰部を覆ふ兩褶みして陰山の下より起り下方へ
至りて陰部の兩傍をなす所あり其外面ハ陰山の如く陰毛
と生ずべし又内面ハ粒液膜と以て掩ふ其形上の方ハ厚と
して潤く下の方ハ次第薄くして擦し其上の方の兩唇の
連なる處と前縫接と云ひ下の方の相連る處と後縫接又ハ

陰門繫帶と云ふ其外皮と粘液膜との間ハ蜂巢脂肪の二組織神經血管及び腺有り

小陰唇一名尿翅

尿翅ハ外陰唇の内ヨある褶ノして粘液膜と以テ掩られ陰部の上の方より起りて陰門の中バ至る粘液膜の間ハ海绵空洞組織及び神經有りて挺孔尿道及び陰門の中バと掩ひ包み外陰唇同様ニ弾力ありて擴張べき質と備へ胎兒の頭と出すニ便あらしむる様ナリたるものなり

挺孔

挺孔ハ男子の陰莖ニ似たるものなれども尿道なく海绵体

ナリ其物ナリ甚だ感じ易く空洞にして勃起るものなり又其位置ハ恰も尿翅の相の相合ふ處ニあり

陰庭

挺孔の下ハ滑こき處あり其形三角形とナす之と陰庭と云ふ其下邊ハ則ち尿道の口ニして尿道の口ハ恰も陰門の上縁ニあり

尿道

尿道ハ恥骨合縫の下より膀胱に通じ尿を輸り出すところの管ニして其長さ一寸二分程有りて擴張べき膜にて包め

處女膜

處女膜ハ陰門の下部と蓋ふ半月形の粘膜にして通常初め
て男女と交をもるときは破裂るものなれども必ずしも然り
とせず怪我病ひ等種々の事より破るることあり失ふこと
あり又生れながら無きものあり娼妓に此物存せし例しも
あり然れハ醫人の察病ふ當りて此膜に關係するものとハ輕
くしくたすこと勿れ

陰門繫帶

陰門繫帶ハ後縫接の内縁より成り初産のとき
さふハ通例少しく破るものなり

會陰

後縫接と肛門の間と會陰と云ふこれハ外皮及び蜂窠脂肪
の二組織より成るものにして半ハ尻骨盤の外孔と塞ま子
宮の脱出を防ぐの用あるものなり其質弾力ありて擴張ベ
きものをなれとも子と産む臨み時としてハ裂ることあり
とす

内器

腔

腔ハ筋膜管として其長さハ前壁に傍ふて測れハ三寸二分
より四寸程あり又後壁に傍ふて測れハ稍々長し其形ハ子

官頸より下の方前面に向ひて子宮は曲れり其入り口の處を陰門と云ふ又腔の内皮ハ粘液膜よりして中皮ハ筋膜外皮ハ蜂窠膜なり是れ交接のこき陰莖を容る處にして胎兒の産るも又此門よりす

子宮

子宮ハ其形梨子の如く其上部を底(或ハ頂)と云ひ中を體下を頸と云ふ其全長二寸二分程なり其廣さの最も闊き處ハ一寸八分程ありて厚さハ一寸程あり其在る處ハ尻骨盤の中心よりして上ハ小腸あり下ハ腔あり前ハ膀胱隣り後ハ直腸に接す而して其上の方ハ前に向ひて下の方ハ

後に向ふを以て腔と相傾けり子宮ハ中空なるものにして其入り口を子宮孔と云ふ子宮孔ハ子宮頸の下端に開けり子宮孔の形ハ平圓なるものあり圓きあり或ハ三角なるあり殊に子を産たる婦人の子宮孔ハ三角なるものあり子宮頸の溝ハ長さ八寸ほどあり入口ハ窄く中頃ハ廣く三角房に入る所ハ復た窄く又三角房の底ハ上にあるものなり

喇叭管

喇叭管ハ其長さ三寸二分程ある管よりして三角房の兩方の上角より出て二寸八分程の間ハ其太さ廢らず夫より開きて漏斗の如き形をなし腹孔に入り胚胎の事有んとすると

其開きたる處動きて兩卵巢に向ひ卵珠を下し精虫を迎ふるの用をなす

卵巢

卵巢ハ男子の睪丸の如く生殖器中最要の器たり其形ハ長さ一寸廣さ五分厚さ三分程ある匾き小体より小宮の兩邊あり又卵巢の中ハ十乃至二十個の眞刺弗胞を有つ其小なるものハ針頭の如く其大なるものハ豌豆ほどあるものなり

眞刺弗胞ハ圓くして透明な細胞体より卵球を包むものなり又其卵珠の大きさは零厘四毛四四の直径あるを常とす澄みて清らなる流体これを包む卵熟すれば眞刺弗胞の形状大きくなり卵巢の表面に浮き上り遂に破裂して卵珠を出す又此卵珠ハ刺管より子宮に入り男精は逢ふて胚胎せざれば大概經水と共に下るものなり

乳線

乳房ハ第三第七の肋骨間にある二ツの半球形の線より纖維囊を以て其上を掩ふ此纖維囊の末ハ線の諸部に入るものなり纖維の物たる無數の小管より枝を生じ益々分れて益々細く遂に乳汁たるべき小胞体中に入る此小胞ハ細小管中に入り屈曲旋轉して漸次大小管の中を集入り

線の中心は達り十乃至十五の大管に集り乳頭の下に集合す乳頭は第四肋骨と水平をなす勃張組織を有す故に之に觸れて鼓動すれば忽ち勃張ものなり

月経

人幼きときハ男女の間未だ著しき區別立たざるものなり然しなづら年漸く長するに及ひて一朝忽然大變化を生じ此時より男女の區別判然として明くなり此時は達きたるを成年と云ふ即ち男女人となるの時なり女子此齡に達する時ハ其全身圓くなり尻骨盤ハ廣がり生殖器ハ成熟す此時に當りてハ臍より血を流す之を月経と云ふ此後毎

月一回の流血ありて多年の間絶ゆることあり
胎經ハ地方寒暖の同らざる等より其初まる齡ハ均一からざれども米國にてハ十三歳乃至十五歳より初まり四十五歳に至りて終るを常とす懷妊中孩児は乳を飲まむる間ハ月経なしとす月経の終り絶ゆる時ハ女身の健康に種々の變動あるものなり初めて月経あるときハ兩股及び脊に痛を起し且つ頭痛惡寒等ありて神経を病まむものなり此後として初めよりハ少く減ずれども多くハ右の如く痛あるものなり然しなづら後ハ全く此痛起らずして平世は変らざる婦人しなきも非ず

月経ハ二十八日毎ニ一回あるを正しきものとす而して其日数ハ四日乃至一週間より平均五日を常とす其平均の量ハ四十一夕七分程なり然しなぐら多くハ此概則ハ外づれ人毎ニ種々より一様あらぬものなり

懐妊の理

男女交合して懐妊する理ハ男子の精液中にあるところの精虫交合の際婦人の卵子ニ觸れて胎孕するものなりこの精液といふものハ一身の精血にして精動脈といへる腎臓の處より睪丸に連なる脈を経て睪丸に入り始めて精液に化しそれより輸精管といへる睪丸より精囊にいたる管を過

ぎて膀胱の裏面にある精囊の中よりありて交合の時射精管といへる精囊より陰莖へ精液を送り出す管より逆射するものなり而して懐妊小最も要用なるものハこの精液中にあるところの精虫なりとすこの精虫といへるものハ顯微鏡にて見るときハ殆ど蝌蚪のごときものにて首大にして腦髓脊髄及び尾ありこのもの婦體の卵子に喰入りて胎孕をなすものなり婦人ハまた月経の來る頃より子宮の兩側にある卵巢内の卵子自然なるその胞を破りて四週日毎に一箇或ハ二箇を脱せんとすこの時子宮ハこれが爲め血液充滿してこれを漏すこれを月経といふこの止むを待ちてそ

の卵子脱せんといふ剪綫といふ喇叭管子宮の左右より卵巢
 は通ずる管の先ある花の形なるもの、蠕動して喇叭管
 へ迎へそれより子宮を來るなりこの時交合するによりて
 男子の精液中の精虫婦人の子宮に入りその卵子に喰入り
 てその体を藏すこれ懐妊の始なりこのとき卵子の内はハ
 二個四個八個等偶數の小球を生ぜるものなり若しこの小
 球五個七個等の奇數あるときり決して懐妊することなし
 但しこの小球ハ交合したる後二三日を経て生じ更ニ無數
 の小球に分裂れて精虫を圍繞し十二三日に至ればその大
 さ豆の如くまなるこれを二層の膜にて包むこの膜と膜と

の間は膠質の液汁ありて胎兒ハ恰もこの膜の内に游泳が
 ごとし五六日頃にはその形軀繪のごとくなりて始めて腦
 髓脊髓と生じ頭の側面より胡麻粒の如き眼を生じ口さけ
 て下顎と離れ二十日と過ぎて鼻耳と顯し一月の末にハ恰
 も疣状の手腕を生ずといへども未だ足と生ぜずして尾の
 こときものあり二月の中頃ハ漸く脛及び足と生ずるも指
 と分たず七十日に至ればハはや眼ハ臉と生じ口唇備はりこ
 れより漸々ハ行血管消食器及び呼吸器等と生じ三月の末
 ハハ胎兒畧備はりて二十三夜の衡量あるに至る四月よ
 りハ一月毎ハその量目と増加し五月に至れば骨稍かたく

指爪と生じ頭上細き毛髪と生じ六七月にハその体軀全
く備はり八九月ハその大さと増し懐妊より大約二百人
十日よて出産するものなり胎兒ハ始に男女の別なく大抵
懐妊の後三月より四月までハ男となりまた女となるもの
あり故に男女の中いづれと求むるも自在なる法ありこ
下章に説かん

不妊の理

男女交合して懐妊となすハ自然の理なれどもいつ西ても
必ず懐妊するとのふものふハあらば婦人の月經終りたる
後十四日乃至十六七日の中と懐妊の期とすこの間ハ卵子

毎に子宮にありて薄き膜に拘留りれておれバなりこの期
と過ぎるとさハ卵子子宮にあらざるがゆゑにたとへ交合を
すとも次の月經後までハ決して懐妊すべからず又尋常二
十歳の男子にハ未だ精液中に精虫あらざれば懐妊するこ
と能はず又壯年の人といへども房事の度と過るればハ精
虫の發生する違ふさゆゑ是又懐妊することおかし
きてまた如何しても懐妊せざる婦人ありて世人これを石
女といへど中よハそれもあるんが多くハ男子の精液の生
かどがさき故ならんその生力の乏しきハ精球とて精虫を
容るるところの細球常に成熟せされバなり(恰も兒童の精

液は異らば故に交合のときは愉快と覺ゆるも決して懐妊
 することなく殊に淫情淡薄にして陰莖の痿縮することも甚
 だ連なりこれ多くは少年のときより妄淫又ハ手淫と恣
 して精液の元素と損ひたるに原因けり又男子壯健なるも
 婦人ハ花風病或ハ淫慾無厭ともいふべき一種の病あるも
 のハ決して懐妊するおとなしきも身体虚弱にして卵巢熱
 せざるも或ハ子宮病あるか或ハ月經不調溢血等と煩ふ
 ときハいづれも懐妊することおし此等の男女ハ時より
 て懐妊することあるも流産し或ハ出産するも生長がこ
 く多くハ不具のものなるべし

されハ男女ともに人の父母たらんと欲せば其身体を健康
 あり交合の度と過すべからず交合の度と過すときハ男子
 ハ精液の造りかた開きよりその精質粗悪淡薄にして水分
 多きがゆゑも強壯なる子女と得ることなし故に少くも四
 五日間精液を蓄へて後為すときハその生力強くして水分
 少きゆゑ生兒もまた極めて強壯なるべし又婦人交合の度
 と過すときハ子宮と産むの機関と損害ふ殊に月經の間ハき
 びしく交合と禁むべし若しこれと犯すときハ大に陰部と
 損害ふものあり慎むべし凡て男女共ハ生殖器ハ疾病ある
 時或ハ事ハ屈托することあるときなごハ緊くこれと忌

むべしこれその身の不健康のこを知らずその生兎果して拙劣或ハ不具となればなり試に思へ伶俐ある人の子も存外の痴保ありまた古今の英雄豪傑といえり人ハ多くハ野合私通の設けたるを故に伶俐の子女を得んと欲せば男女とも精神と身体の安寧あるべきに於て精一むいのかと盡して交合るべし然るるときハ身体の害よあらざるのこあらざるその歡樂もまた充分なり

懐妊自由の理

故に強壯ある美兒と懐妊せんとするふハその両親の健康と注意とよりなりとす懐妊の期ハ既に前にいへるごとく月

経後凡そ半月の間おれば男女とも健康にしてその期中に交合あすときハ大抵懐妊するものなり然れどもその最もよき機会に遇ハされハ期中たりとも懐妊せざるふこあるべしその好機会とハ月経止んで後七日か十日の間とす但前もいへる婦人の卵巢の内より胞子ハ漸々一個或ハ二個づゝ生長し最もよく熟せるもの膨れ上り月経の止むを待ちて破烈しその中より逸出したる卵甚だ奇異なる薄き膜に拘留められ喇叭管を通り過きて子宮に来ること子宮に来るまでの日数ハ大約二三日おればこの間ハ交合あすもまづハ懐妊せざるなり而してその子宮に来るとき

ハ子宮ニ脱落膜といへる膜出来てその卵と下へ脱ぬやう
 して受留めり但しこの膜ハ一週間をどハ保つといへど
 もだんく弛み終ふハ壞れて卵と共に下へくだらんす
 されバこのうちハ交合なすときハ男子の精液がならすこ
 れハ觸れるがゆゑニ懐妊するものとまた疑ひなく懐妊する
 ときハこの脱落膜下に落ちず俄ニ生長して懐胎と保護す
 る一つの楯とあるなりその懐妊せし時日と概算するに二
 十入の中十九入までハこの一週間以内の懐妊たることを
 知り得たり
 前章不妊の部ニ論せし如き故障あり男女ともに健康にし

て前の如くなるすせしども懐妊せざるものハ一月乃至二
 月の間別居して後に交合すれば多くハ懐妊するも此を
 避妊自由の理

懐妊と欲せざるものハ月經止んでより十四日乃至十六日
 を経て後交合をすべしこれ前に云へるごとくその期と過
 ぐれば卵も膜も子宮を離るるがゆゑニ来月の月經までハ
 決して懐妊する事とあはれはなりその卵と膜の脱る候ハ
 前以て知る事と難しとすども大抵十六七日と過ぐれば
 その脱る事と少しも疑ひなく而してこの卵と膜との下り
 る時ハ陰門より薄き水のやうなるも溢れ出で陰門

の外部までもぬらしそれより二三時間と経て微痛を覚え殆ど子宮を引張るやがとき氣味なりて大さ豆かどなる灰白色の凝物出づるなりその下りたる証候はして當人確とこれと見とめをバ次の月經までハ懐妊の心配あることありし

又月經止まて後二三日間ハ卵未だ子宮小来らずしてその道中ハあが間なれば大抵ハ懐妊するまををしとくども男子の精虫ハ子宮の中につも二十四時間活きのまらばゆゑにたとひ卵の来る時に交合せずともその活きのころころの精虫卵の来るや否や忽ちこれハ喰入りて懐妊を

かすことわり故ふくこの道理と知る小至てハ懐妊避妊意のまきたるべしよりて佛國の婦人ハこれを避くる小頗る妙と得るといふ婦人等ハよくその卵の脱る候を知り或ハ自ら指といれ卵を搜りて撮り出し或ハ卵の子宮に來るときこれを障ふる透膜即ち脱落膜を破り棄るものわりとふれらの術ハ健康を害するほどのまにハありされども決して為すべからざるあり以上説くおとく懐妊を避くるに或ハ卵と膜の自然に下りるを待ち或ハ卵を棄て或ハ膜を破る等種々の法ありといへども到底男子の精虫を勦絶するに如くぞその精虫を勦

造化論

絶するの法數種の中劇烈なる薬を用ゐるに至て危険なればけつして為すべからず酒精はさむと激しうらすして効驗ありといくども健康を害するものなればなれまゝ用ふべからず但し電氣の震動を用ゐるハ無事安心して効有り又冷水(白練礬を加ふるも宜し)を用ゐるも効有りて更ニ害あることなし(交合の後直に氷鏡にて陰部注射)洗ふなり

男兒女子を自由し得るの理

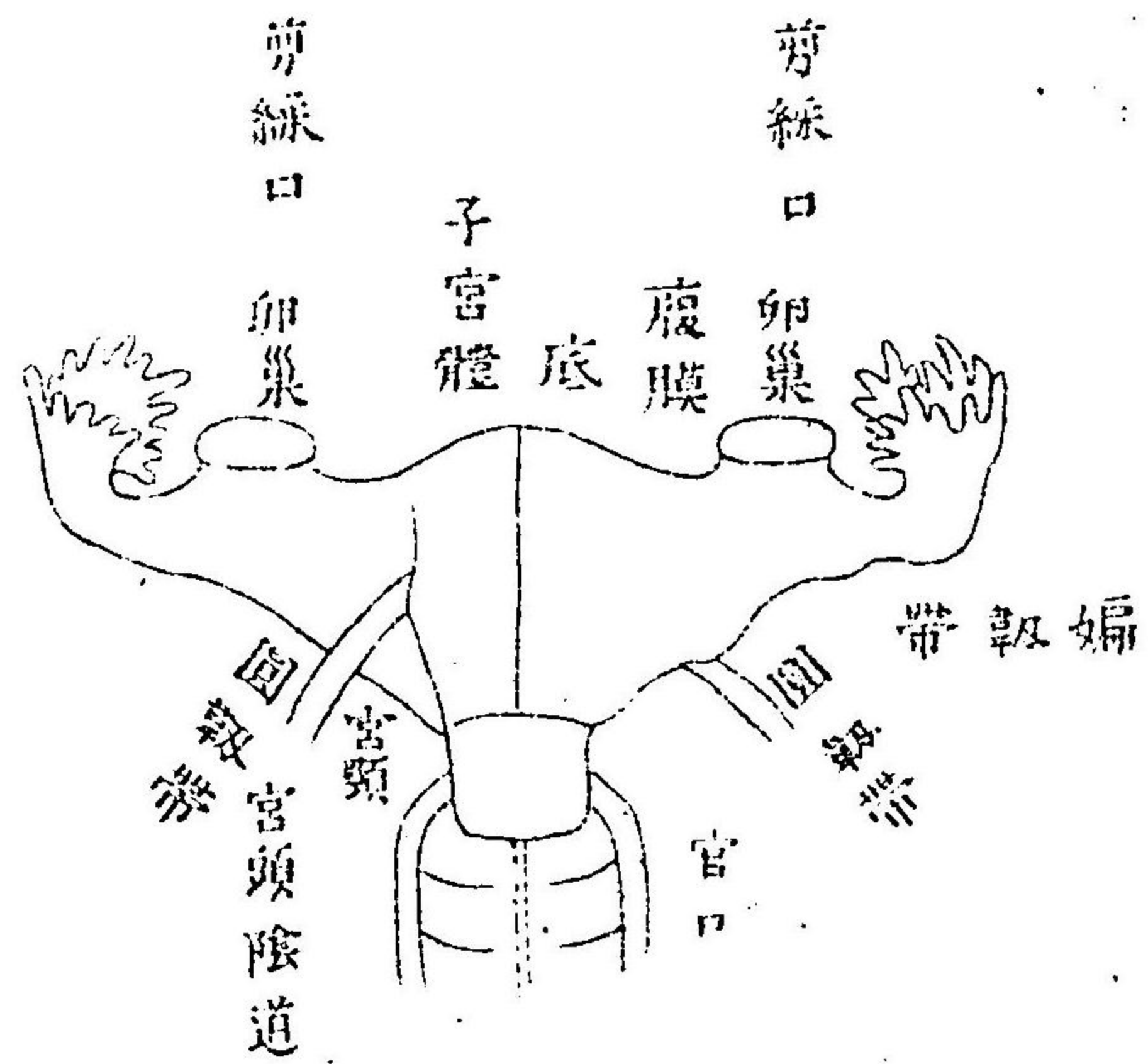
右の卵巢より卵に精虫觸るれば生兒男となり左の卵巢より卵に精虫遇へば生兒女となる故に婦人交合したる

後枕を右にすれば右妊、枕を左にすれば左妊むといふの説古来よりあれど此ハ陳腐の説にして當今の人の更ニ信用せざるところなりとも一胎兒の男となり女となるハ懐妊の始めより判然區別のあるまあらす何如とされば胎兒の体軀未だ全く備はらざるうちハ男兒の卵となるべきものハ体中にありて女子の卵巢となるべきものと其の位置及び形状少しも異なることなく胎兒の漸々生長するに従ひ強いて男女の性を賦與して男となし女となすものなれどあり然るにこゝにまた一説ありそハ胎兒の男女と分る、原因ハ懐妊する時の瞬間の模様によるものにして

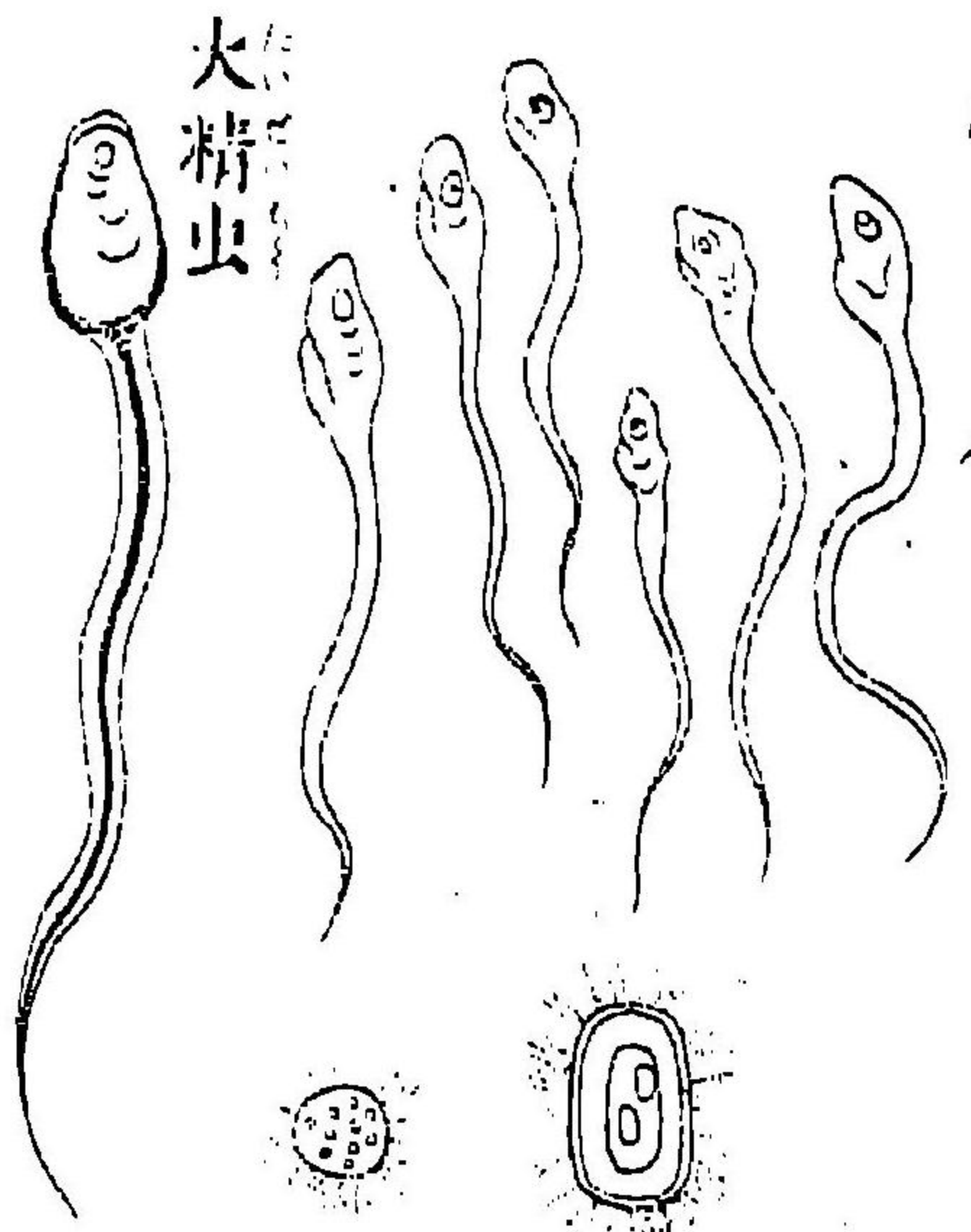
これを經驗せしに夫婦のうち何れもも氣力の強き方生
 見の性を造るものにて若し夫婦ともに強けれハまた感力
 の強弱ありて男女を分つ此感力ハ年齢よりて異なりと
 いへど夫婦とも若し壯年あるものつより故に中年
 の男子年少の婦人と交合して懐妊すれハ男児を産み中年
 の婦人少年の男子と交合して懐妊すれハ女児を産むを見
 て知るべしとこれまた一概に信難し如何とあれハ人々
 の情慾區々なれば本人の外その強弱を知ること能はざれ
 ばなり故に胎児の男となり女となるハ懐妊せし後夫婦の
 愛情の厚薄は固るの説最も信近しとすその証ハ婦人

平生交合はいつも愉快を極めしも懐妊の後頗るこの味を
 失ふものあるにその夫常よりいらすこれと交合するとき
 ハ胎児その男子の情を感じて男児となりまたうゝる婦人
 その失の意は随はずして交合を拒むときハ十中の九まで
 ハ女児となるなり通例情の濃き婦人ハ女児を産む情の淡
 き婦人ハ男児を産むを見ても亦知らるべし
 さてまたこゝもその秘法を説く人ハ先づ男児を得んと欲
 せば婦人の月經止んで後三日を経てより凡そ二ヶ月の間適
 度な交合をありそれより断然と交合を廢するがうへは尚
 婦人の傍りたも寄ることあられ女子を得んにハ同く月

経後二三日を経てより一二度交合をありそれより一ヶ月乃至二ヶ月の間決して交合あらず然るときは其の胎児男子の氣に感せざるより女子とあることを得べし
 またその生児の容貌の父母に肖る理合ハ實ニ奇妙のものにして凡そ懐妊中夫婦別居するときハその児多くハ母又肖似しまた情の濃き夫と始終一家ニあれば大抵父又肖似するものあり若しその婦人他の男子と交合ふして懐妊しその後別の男子と配偶するときはハその胎児實の父又似して却て後の男子又似るハこれ婦人の押昵む人又似るものにて實ニ不思議といふも餘りあり
 造化機論 畢



顕微鏡にて精虫を視たる處

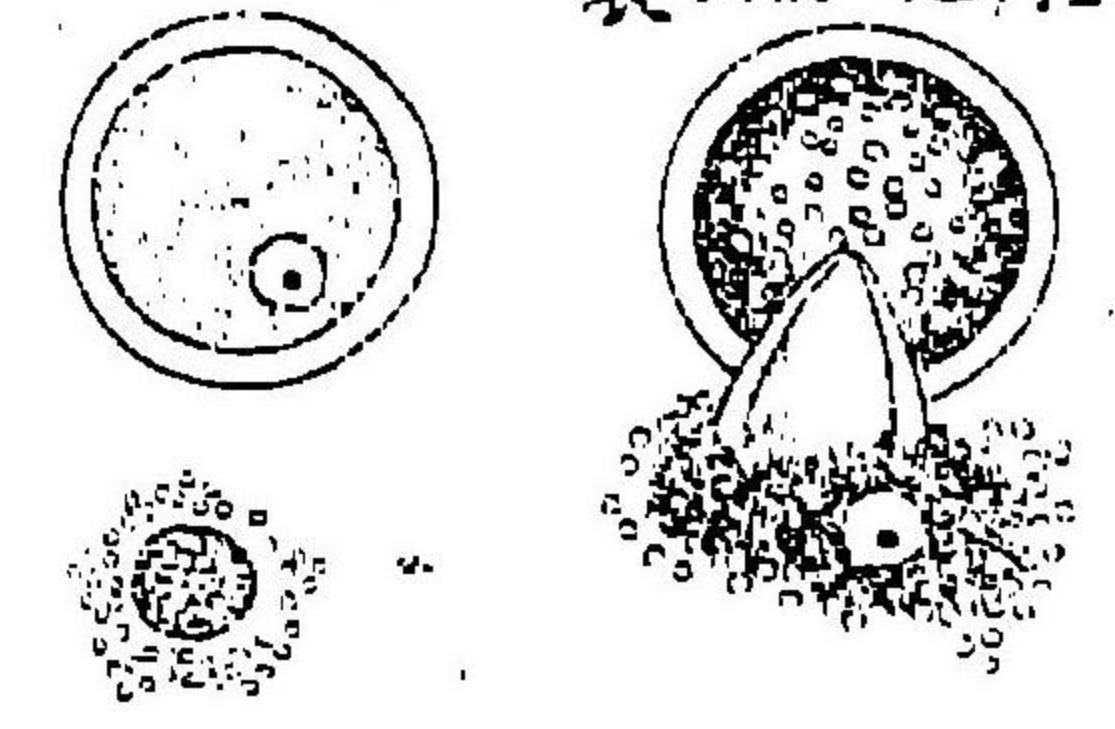


大精虫

卵種之圖

膜黄蛋

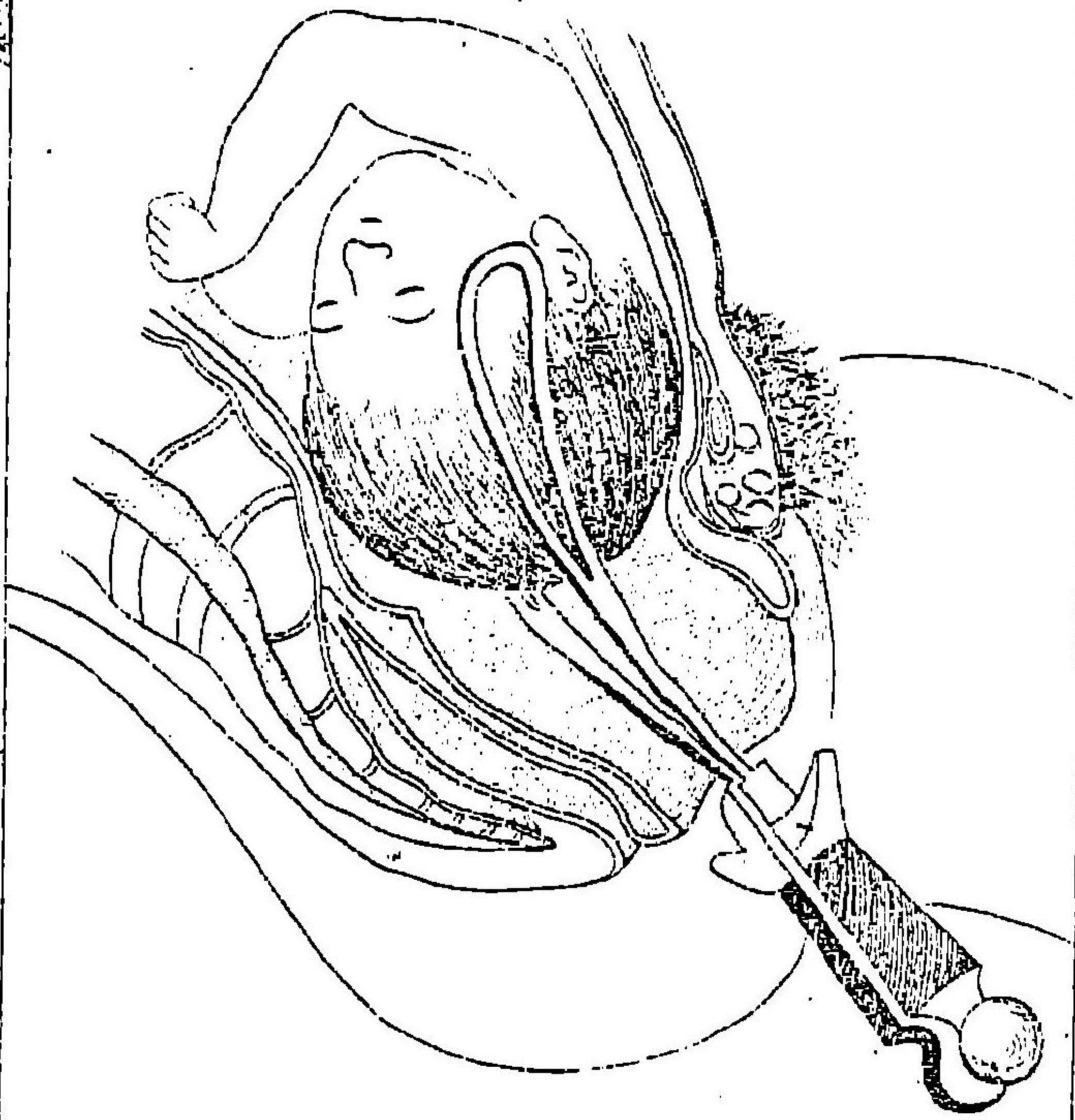
裂破胞種胚



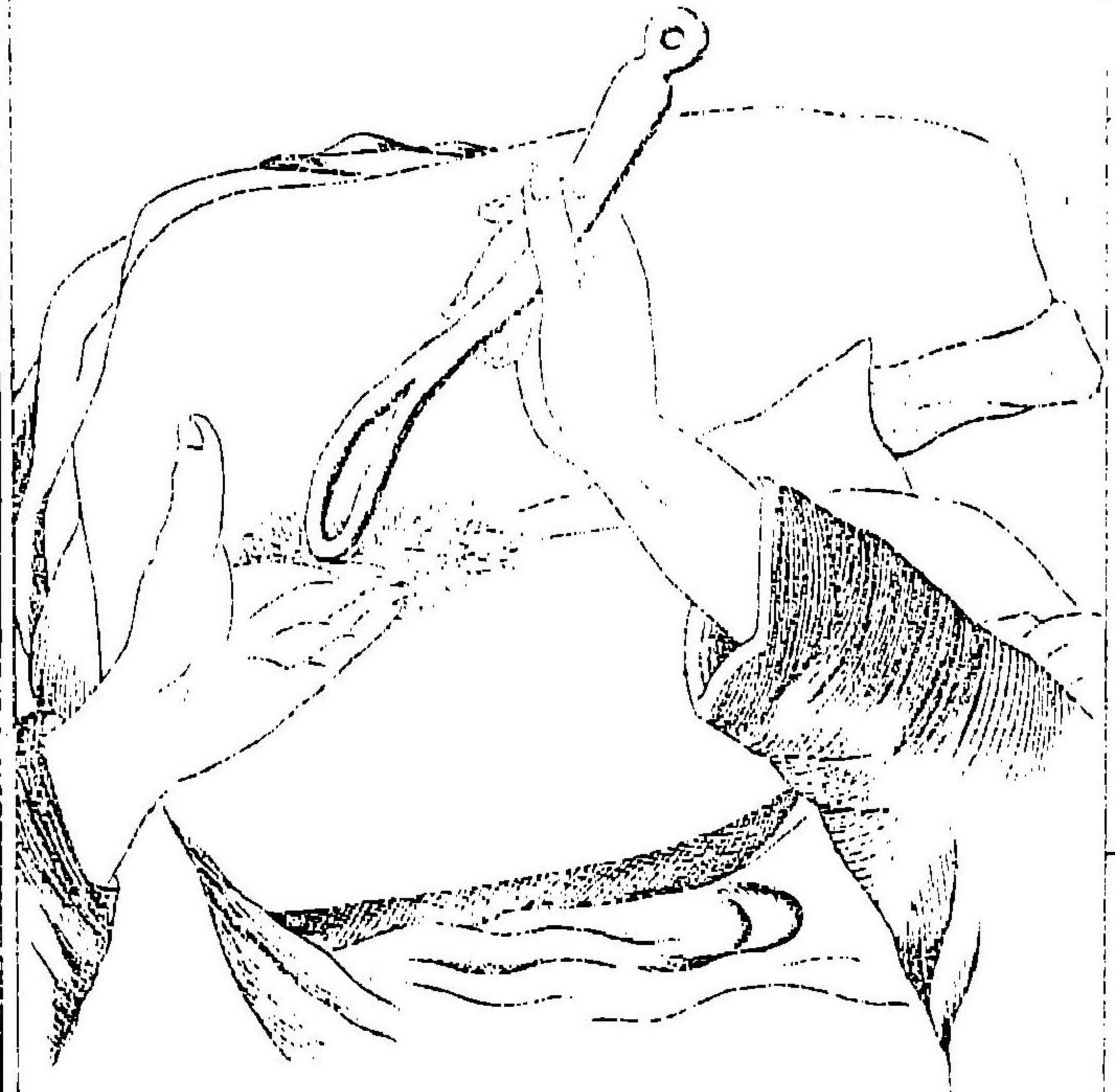
卵の部の部
出を時先



圖一 鑷を以て頭を挟む

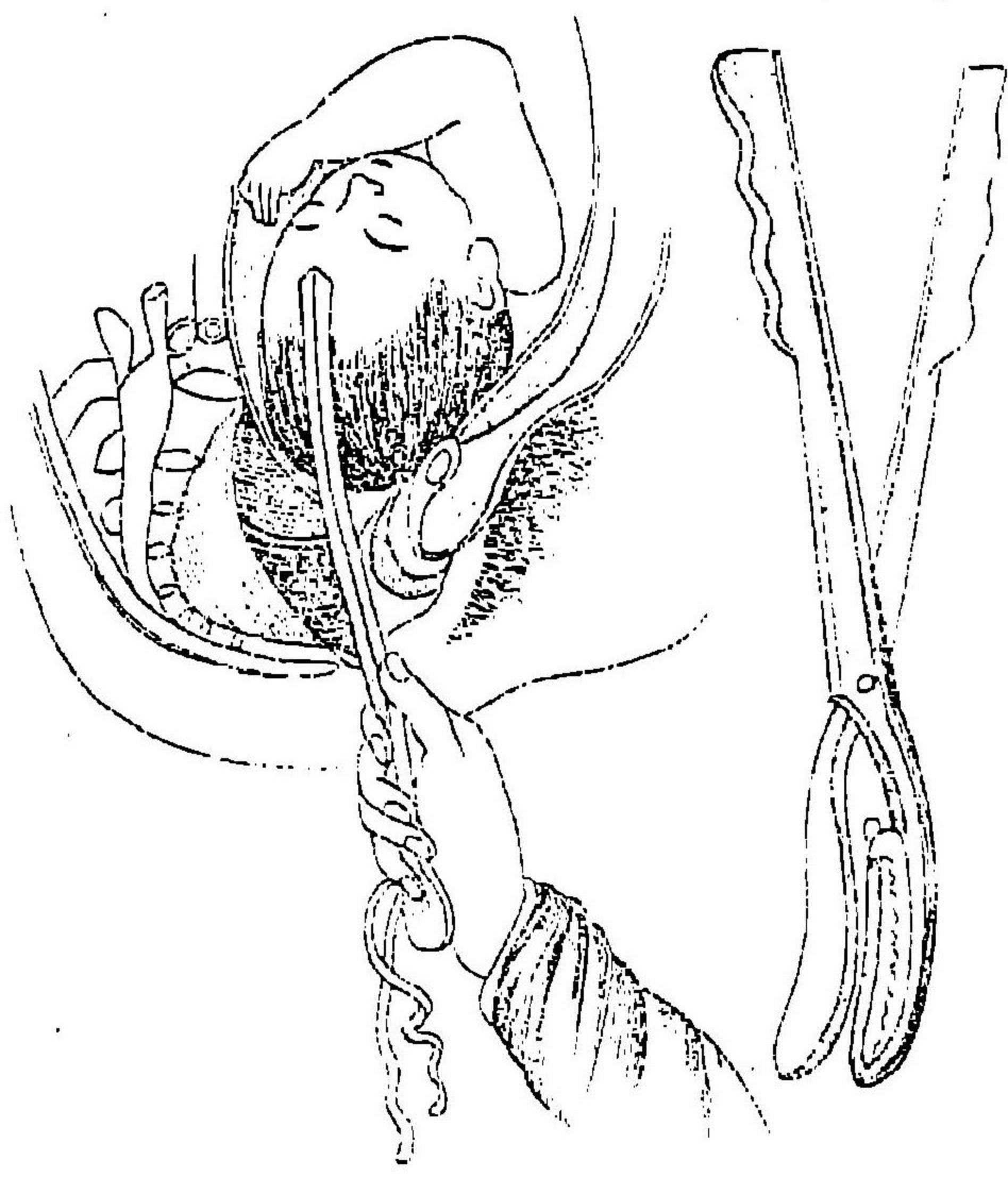


圖二 鑷を以て胎子を入る

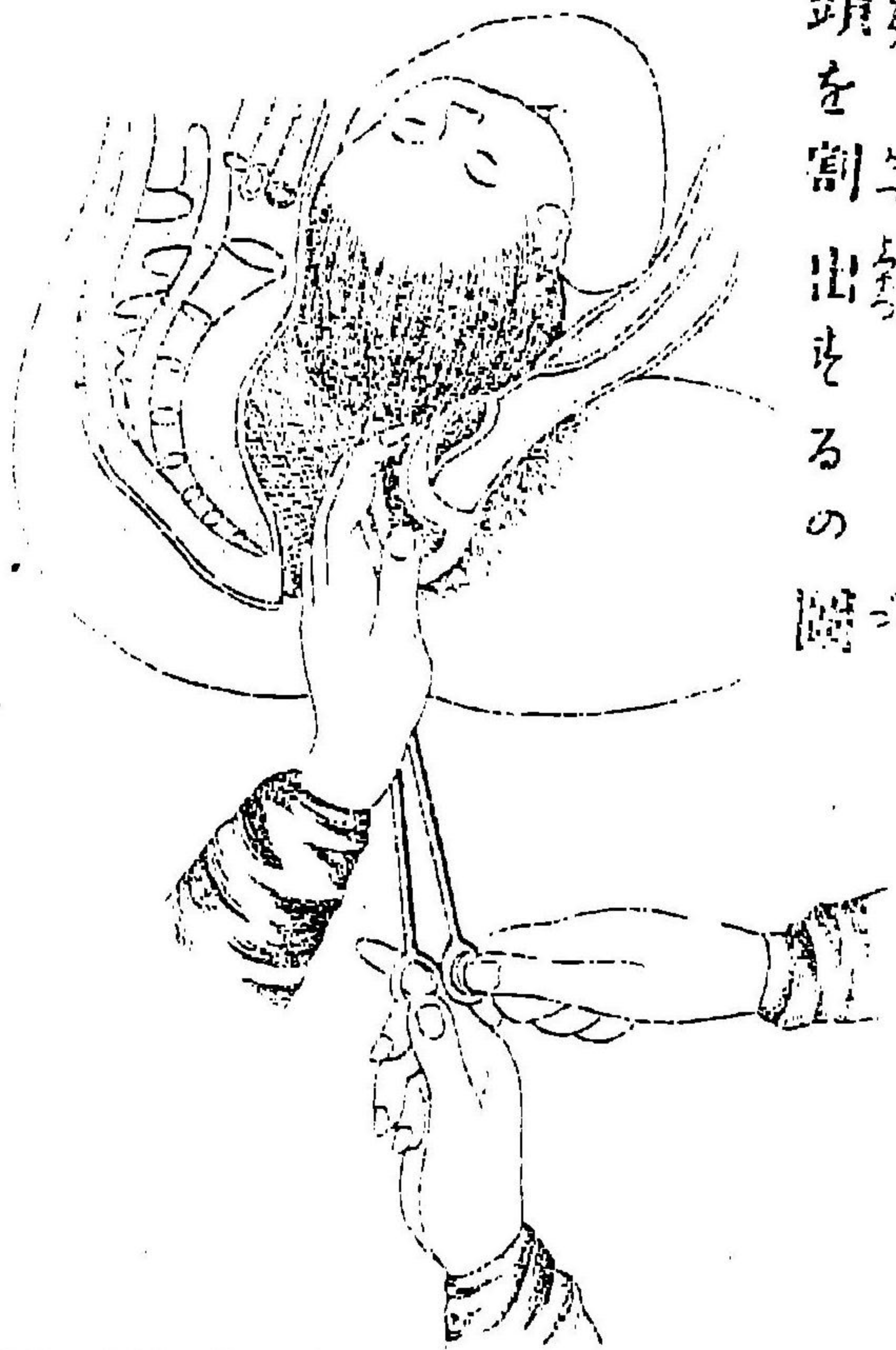


兒頭を碎く
破く鑷子の
の圖

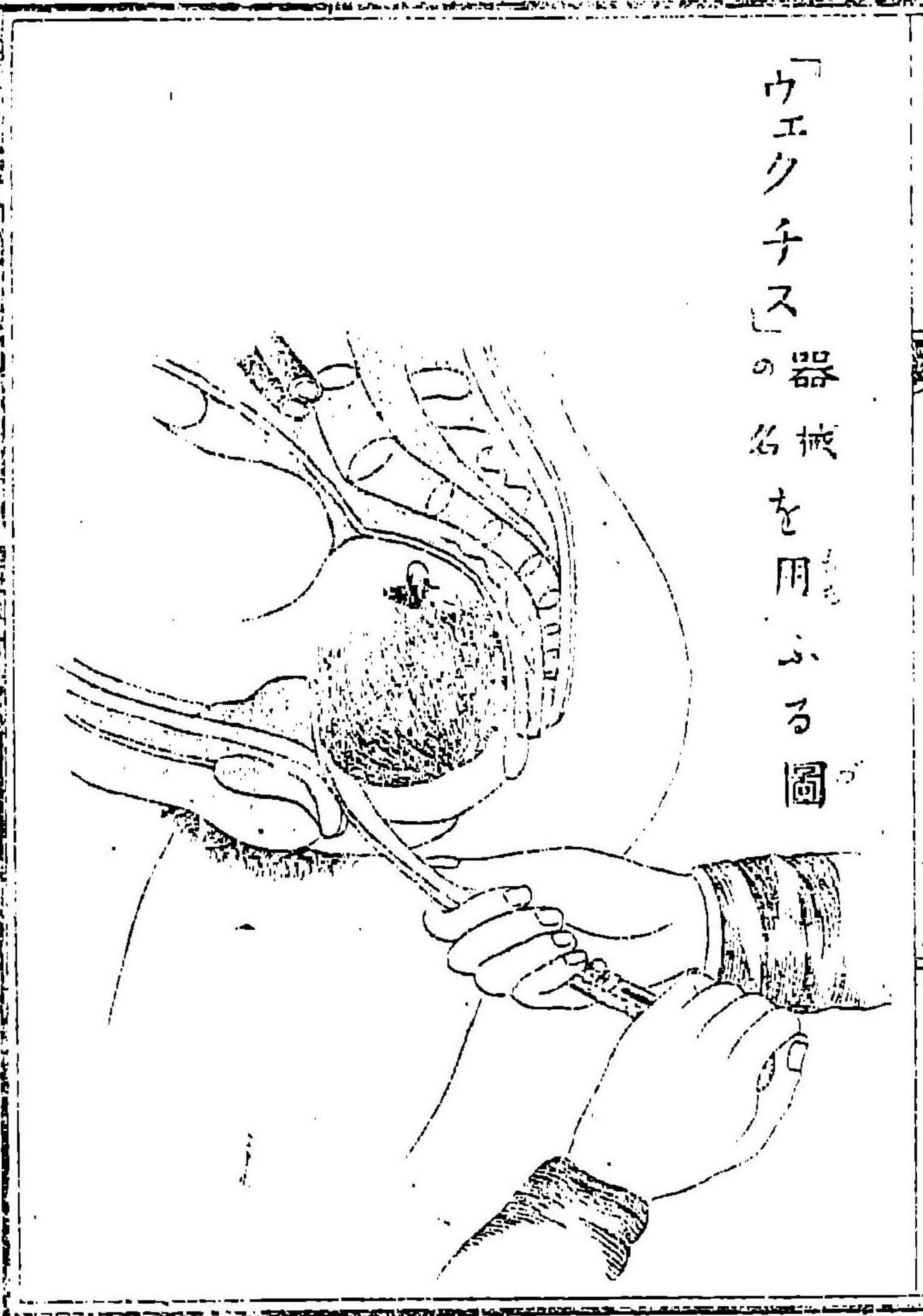
鑷子を用いて
兒頭を碎く
破くの圖



兒頭を割出せるの圖



「ウエクス」の器名を用ふる圖



ウエクス

ウエクス

ウエクス

ウエクス

ウエクス

ウエクス

明治十七年十月二日反刻御届
同 年同月廿七日出版
定價金三拾弔

原版編輯兼
出版人

東京府平民

岡田常三郎

下谷區御徒町三丁目七番地

京都府平民

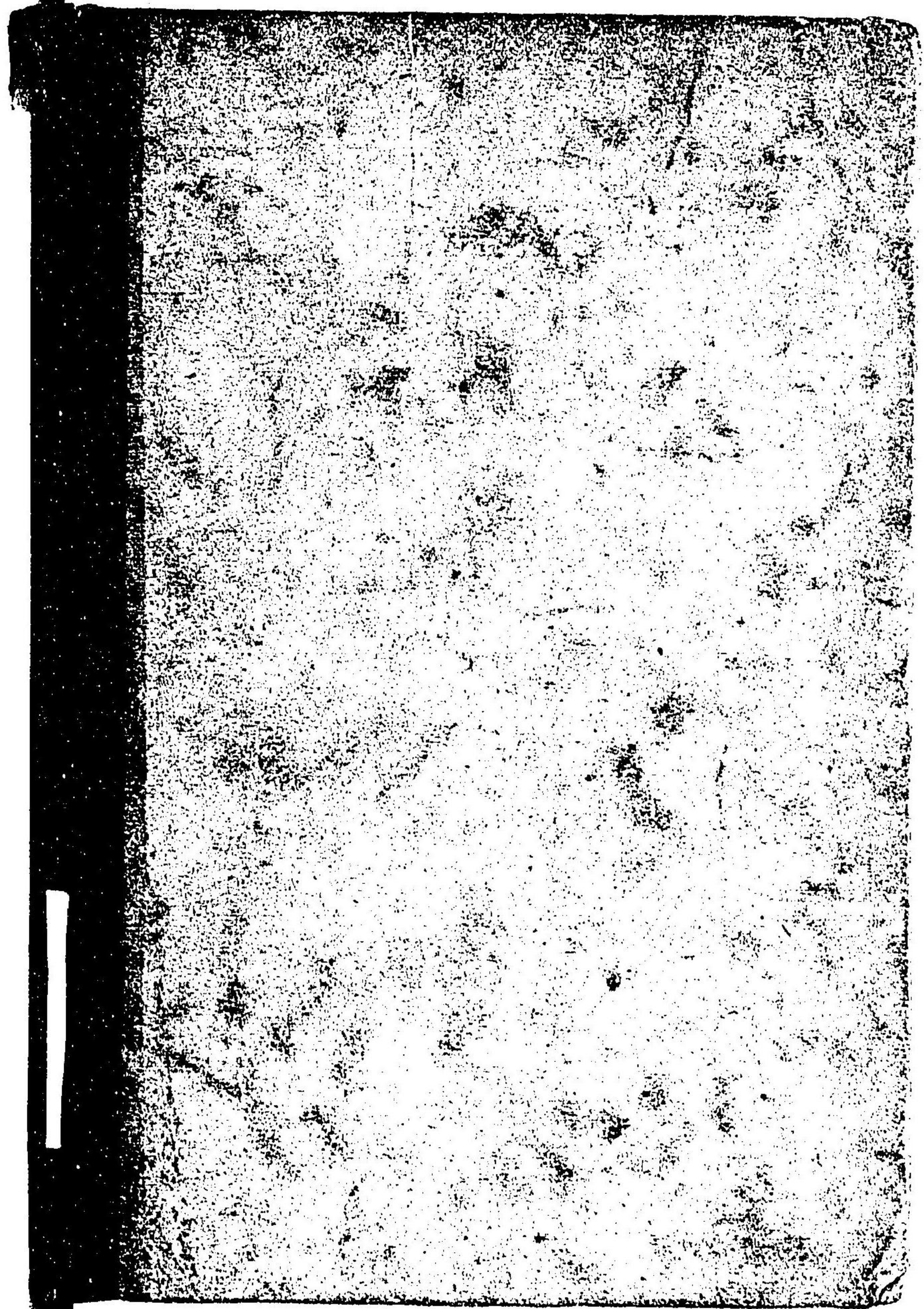
内藤彦一

下京區十三組大壽町十九番戶

反刻出版人

若林喜輔

發兌京都寺町柳地南





059927-000-6

特65-413

新撰造化機論

岡田 常三郎 / 編

M1.7

CBI-0186

